国民の森林・国有林
林野庁
中部森林管理局
〒380-8575長野市大字栗田715-5
☎050-3160-6513
http://rinya.maff.go.jp/chubu/

広報 中部の森林（もり）林

表彰式後の発表者と審査員の方々

森林・林業の更なる推進と各種取組の成果の普及を目指し

「中部森林技術交流発表会」を開催

主な項目

○ 平成27年度中部森林技術交流発表会を開催 …… P2
○ 平成27年度国有林モニター会議の開催 …… P6
○ シリーズ「森林官からの便り」 …… P8
○ シリーズ「ご当地自慢」 …… P10

平成二十七年度 中部森林技術交流発表会を開催

【技術普及課】 二月二日から三日にかけ、中部森林管理局大会議室において、「平成二十七年度中部森林技術交流発表会」を開催しました。

この発表会は、管内の国有林並びに民有林の行政・教育・研究機関、団体等が、森林・林業に関する試験研究、技術開発等に関し、取り組んでいる調査研究等の発表を通じて交流を図り、地域における森林・林業の推進と普及に資することを目的として毎年開催しています。

今年度は、国有林関係から二十課題、民有林・学校関係等から十一課題の合わせて三十一課題が発表されました。

桂川局長の開会挨拶

審査員の方々

発表会の開会に当たり、桂川局長から「一般会計となった国有林は、森林、林業、木材産業における我が国全体の、そして都道府県、市町村の抱える様々な課題の解決に向け、事業実行を通じて貢献していくことが求められている。研究成果は国有林だけに反映させるのではなく民有林にもお知らせし、普及を図っていくことが必要である。本発表会が、国有林と民有林関係者の方々や森林林業に関わる教育機関の方々等、多くの皆様と一緒に開催できることをうれしく思うとともに将来に向けた期待が抱ける場ではないかと思っている。

また、今年度の国有林野事業業務研究発表会では、中部局から発表した課題が、大変優秀な成績を収めることができた。

来年度も、中部局の努力が評価されることを望むとともに、両日にわたり発表される課題が、今後の森林、林業の発展に寄与することを祈念する」との挨拶がありました。

発表は、「森林技術」、「森林ふれあい」、「森林保全」の各部門ごとに、林業の低コスト化や、地域と協働した取組、独自に着目して掘り下げた課題や新たに取り組まれた開発課題などについて、それぞれがその成果について発表しました。

聴講者等で満員の発表会場

一日目の発表会終了後には、信州大学農学部岡野哲郎教授から、二日目は名古屋大学大学院生命農学研究科田中隆文准教授から、各課題の着眼点や効果、今後進めるべき方向などについて、研究分野で得られている知識や経験などを織り交ぜて講評をいただきました。

今回は、今までになく多くの課題を応募いただいたこともあり、聴講者等を含め約四〇〇名の参加者により盛大に開催されました。中部森林管理局では、今後とも森林・林業技術の進展とその普及に向け、各署等での技術開発、地域との連携など、民有林関係者との共働・協調を深めるとともに、その成果の情報発信に積極的に取り組んでいくことにしています。

講評を行う信州大学
岡野教授

講評を行う名古屋大学大学院
田中准教授

審査結果を発表する中村森林整備部長

表彰式の様子

受賞課題と受賞者は次のとおりです。
（発表順で掲載）

□国有林の部

○局長賞　優秀賞

・奈良本山ヒノキ人工林
　天然更新試験地における施業について
　東信森林管理署　畠山弘一
　信州大学大学院　大塚　大
　信州大学農学部　斎藤仁志
　植木達人

東信署　畠山さんと信州大学　大塚さん

・コンクリート構造物施工困難箇所における改良工事の取り組み事例
　木曽森林管理署　守屋徹郎
　吉越秀一

木曽署　守屋さんと吉越さん

・7．9南木曽町豪雨災害からの復旧
　～発生直後からの経過と対応～
　南木曽支署　祐成亮一
　中村信吾

南木曽支署　祐成さんと中村さん

・二次林及び針広混交林における
　ウダイカンバの活用を目指して
　富山森林管理署　松原正志
　古賀有紀

富山署　松原さんと古賀さん

・ヒノキ天然林における結実豊凶と
　小面積皆伐後の実生の消長
　森林技術・支援センター　久保喬之
　木曽森林管理署　今井　歩

森林技術・支援センター　久保さんと
木曽署　今井さん

○局長賞　努力賞

・カラマツコンテナ苗の
　成長調査について
　南信森林管理署　大溝敏哉
　原田光基
・鳶ケ巣大崩壊地の
　自然再生緑化への取り組み
　伊那谷総合治山事業所　中屋　忍
　㈲エコ・プロ　島田洋治
・里山における山腹崩壊地の
　復旧について
　愛知森林管理事務所　佐藤義和
・ヒノキコンテナ苗の
　植栽功程調査について

森林技術・支援センター　三村晴彦
岐阜森林管理署　大林誠司
岐阜県森林研究所　渡邉仁志
茂木靖和

・低コスト造林に向けた取り組み
飛騨森林管理署　齋藤由晃

・30年経過した本数密度実験林の比較
森林技術・支援センター　千村知博

・人工林ヒノキ高齢木の樹幹解析結果について　―赤沼田天保ヒノキ
植物群落保護林の事例―
岐阜森林管理署　細江将樹
森林技術・支援センター　三村晴彦

・御岳トウヒ・シラベ天然生林　林分成長固定試験地～60年間の推移～
森林技術・支援センター　千村知博

・UAV（無人航空機）を活用した調査業務の効率化について
中信森林管理署　東川俊彦
㈱クエストコーポレーション　神戸博之

・国有林を活用した「下呂の森を巡るツアー」の開催～地域連携の視点から～
岐阜森林管理署　河原誠二
平杤潤己

・イヌワシ生息地の森林環境保全整備事業箇所における餌動物の利用状況
東信森林管理署　森　孝之
㈱環境アセスメントセンター　水上貴博

・南アルプス山麓におけるモバイルカリングの取組
南信森林管理署　谷澤功志
㈱野生動物保護管理事務所　奥村忠誠

・ニホンジカ囲いワナによる効果的な捕獲について
中部局計画課　大野裕康
㈱Foresters PRO　高橋聖生

・立木利用防止シカ柵の設置試験について
東濃森林管理署　佐々木伸也

・南木曽支署におけるニホンジカ対策の取組について―プロジェクトチームによる活動―
南木曽支署　古田義一
早川幸治

□民有林の部（森林林業振興賞）

・植栽後の初期成長に優れるヒノキ・コンテナ苗育成条件の検討
岐阜県森林研究所　茂木靖和
渡邉仁志
森林技術・支援センター　三村晴彦

岐阜県森林研究所　茂木さん

・ヒノキ・コンテナ苗の活着および初期成長に及ぼす植栽時期の影響
岐阜県森林研究所　渡邉仁志
茂木靖和
森林技術・支援センター　三村晴彦
千村知博

岐阜県森林研究所　渡邉さん

・高齢ヒノキの樹高成長量及びそれと幹肥大成長量の関係
岐阜県立森林文化アカデミー教授　横井秀一
森林技術・支援センター　三村晴彦

岐阜県立森林文化アカデミー教授
横井さん

・多機能な森林林業への転換
たかやま林業・建設業協同組合　長瀬雅彦

たかやま林業・建設業協同組合　長瀬さん

・水源林造成事業におけるクマ剥ぎ防止対策について
国立研究開発法人　森林総合研究所
森林整備センター中部整備局
富山水源林整備事務所　丸山　慧

富山水源林整備事務所　丸山さん

□学生の部（奨励賞）

・航空レーザーデータを活用した樹高・本数密度の把握手法の提案
岐阜県立森林文化アカデミー　飯嶋郁雄

岐阜県立森林文化アカデミー
飯嶋さん

・カラマツ天然更新林分における間伐時の生産性
信州大学農学部　松永宙樹　斎藤仁志　植木達人

信州大学　松永さん

・長野県における野生鳥獣被害防止対策について
長野県林業大学校　三石太希

長野県林業大学校　三石さん

・モノレール活用事例研究
長野県木曽青峰高等学校　森林環境科
宮地栄多　奥野真基　中島翔太　長谷川大輝

木曽青峰高等学校
中島さん、長谷川さん、奥野さん、宮地さん

・木曽の伝統・漆に学ぶ
長野県林業大学校　湯澤充尋

長野県林業大学校　湯澤さん

・材木屋が考える6次産業化
～DIYユーザーに向けての木材販売の可能性の検証～
岐阜県立森林文化アカデミー　松葉壮平

岐阜県立森林文化アカデミー　松葉さん

平成二十七年度 国有林野事業業務研究発表会が開催

【技術普及課】 十二月十日、農林水産省において、「国有林野事業業務研究発表会」が開催されました。

本発表会は林業の低コスト化、鳥獣害対策や地域の関係者との連携など様々な分野での事業や試験研究に取り組んでいる成果を広く普及するため、毎年開催しています。

発表は、「森林技術」「森林ふれあい」「森林保全」の三部門で行われました。

中部局からは、「森林技術部門」に中信森林管理署と愛知森林管理事務所、「森林ふれあい部門」に南信森林管理署、「森林保全部門」に木曽森林ふれあい推進センターが発表しました。

各部門毎の発表終了後、林業機械化センターによる特別発表がありました。

その後、講評、表彰式が行われ、中信森林管理署の発表が「林野庁長官賞（最優秀賞）」、愛知森林管理事務所の発表が「林業機械化協会会長賞（優秀賞）」、南信森林管理署の発表が「林野庁長官賞（優秀賞）」を受賞しました。

中部局の発表課題と発表者は次のとおり

【森林技術部門】

林野庁長官賞（最優秀賞）

・コンテナ苗植栽技術の開発・普及に向けた取組

中信森林管理署　堀内志保
青島雅俊

林業機械化協会会長賞（優秀賞）

・トータルコスト削減への挑戦！
～伐・造一貫作業システムin愛知～
愛知森林管理事務所　鈴木健二
中谷淳視

【森林ふれあい部門】

林野庁長官賞（優秀賞）

・遊々の森の活動を振り返って
～「多摩市民の森・フレンドツリー」～
南信森林管理署　新川雄大
多摩市立八ヶ岳少年自然の家
五味直喜

【森林保全部門】

・木曽駒ヶ岳における植生復元作業について（10年間の取組み）
木曽森林ふれあい推進センター
小林伸雄
東京コンサルタンツ㈱
藤田淳一

中信署　堀内さんと青島さん

平成二十七年度 国有林モニター会議の開催

【企画調整課】 一月二十一日、中部森林管理局大会議室において、国有林モニターの方八名の参加により国有林モニター会議を開催しました。（当日は、大雪の影響により参加を予定されていた一〇名が欠席となりました）

会議は、局長の挨拶で始まり、企画調整課長から会議に当たって、モニターからの事前意見・要望等への回答、二年間のモニター活動の概要等（モニター会議、二回の現地見学会、四回のモニターアンケートなど）について報告の後、モニターの皆様からモニターとしての二年間の活動を通じてのご意見、ご感想等について発表していただきました。その後、意見交換に入りました。

会議の様子

意見等を発表

モニターの皆様から「国有林の現場を見ることができて良かった」「日本は災害列島、御嶽山噴火災害の復興等の取り組み等について全国植樹祭等を通してPRが必要」「将来は森林資源の大部分が枯渇するのでは？国を挙げて考える法整備等が必要」「民国連携、林業の育成・発展を真剣に考えて欲しい」「NPO、各種ボランティアを活用した取り組みが必要」「森林の大切さを一般の人にもっとPRを！」「国産材の利用の推進により、林業が若い人に魅力ある職場となるよう取り組みが必要」「森林について都会の人に地域イベント、大型ショッピングモール等活用したPRを！」「自然の適切な保全・管理に努めてほしい」などのご意見、ご要望が出され、局長等からお答えしました。

また、閉会後に実施したアンケートでは「日本は、森林大国。機械やロボットをもっと活用して森林の整備を進めてほしい」「セルロースナノファイバーの普及等の新しい事業にも大いに取り組んでほしい」「モニターをもう少し続けたい」「モニター活動を通じて教えていただいた事を少しでも知人等に広報したい」「積極的な意見交換ができ大変有意義な会議であった」「モニター募集はホームページより一般的な雑誌に載せた方がモニターが集まりやすい」といったご感想、ご要望をいただきました。

意見交換の様子

国有林モニターの方々と局幹部

中部森林管理局では、今回の国有林モニター会議でいただいた貴重なご意見を、これからの国有林野の管理・経営に活かしていきたいと考えています。

木質バイオマス利用の研修会

[名古屋事務所] 十二月十五日、岐阜県森林技術開発・普及コンソーシアム主催による日本の木質バイオマス利用について学ぶ交流・研修会が開催されました。

バイオマス利用の先進国であるドイツの事例を基に日本のバイオマス利用を考えようということで、ドイツ在住の環境ジャーナリスト　村上敦氏（岐阜県高山市出身）よりドイツにおける再生エネルギー利用の現状と考え方から日本における木質を含めた再生エネルギー（以下再エネ）の利用のあり方について基調講演がありました。

村上氏からは、ドイツの再エネの現状としては総電力消費量の約二七パーセントが既に再エネ発電（風力・バイオマスガス・太陽光が主）となっていること、二〇二五年度までに原子力発電を廃止、二〇五〇年には最低でも八〇パーセントを再エネ発電とする計画となっていることが紹介されました。また、ドイツでは再エネ発電所の所有が約六割が大企業でなく、個人や農家・地域の中小企業が所有していることも紹介されました。そのうえで、日本の電力エネルギーの現状として再生エネも含め大企業がその多数を占めている。この現状を直視したうえで木質バイオマスの利用を考えることが必要ではないかとのことでした。

基調講演を行う村上氏

特に岐阜県のように基幹産業が少なく、公共事業など建設業などに頼っている地方ではこの先人口減少も加わり地域経済の活性化は大きな課題である。その一つの方法として木質バイオマス利用も含めた再エネの取り組みを考えていくべきで、エネルギーは工業製品や農作物とは違い、どこで生産しようが価値は同じであると言うことからすれば地域で再エネ事業に取り組めば生産コスト削減や雇用の発生など、経済の活性化につなげることも可能ではないかとのことでした。

ただし、木質利用だけでは資源量からいっても化石燃料の代替となることも到底無理であるので、他の再エネと組み合わせたり、電熱併用の効率的な利用を考えていくべきでもある。との提言がありました。このほかドイツでは再エネの取り組みと平行して断熱建物の普及など省エネへの取り組みも積極的に行われていることが紹介され、原発に依存を続ける日本のエネルギー政策との違いが示されました。

参加者からはドイツのエネルギー需要の現状などについて質問が出されましたが、省エネの取り組みも積極的に行われていることを聞き感心すると同時に、木質バイオマス利用のあり方を考え直す機会となりました。

大きなトラブルもなく稼働！ 第七回岐阜木質バイオマス協議会

[名古屋事務所] 岐阜木質バイオマス協議会（伊藤　勇会長）は、平成二十八年一月十五日に岐阜県瑞穂市において、第七回岐阜木質バイオマス協議会を開催しました。当協議会には、木材関連団体の会員をはじめ、市、県、国の関係者が出席しました。地元・瑞穂市からは棚橋瑞穂市長が出席され祝辞が述べられました。

今回の協議会は、㈱岐阜バイオマスパワーが平成二十六年十二月から本格稼働を開始し、約一年が経過した中での協議会開催となりました。

冒頭、伊藤会長から開会に当たり「稼働当初は思うように未利用材等が集まらず苦労しましたが、関係機関のご尽力により、春先より木材の集荷が安定的に行われ、六月以降には未利用材の集荷が五〇パーセント程度となった。現在は、安定的に原木の集荷が行われている。これもひとえに皆様のご協力の賜と感謝している。昨年度は安定的な発電事業に注意して稼働してきたが、今年はこれに加えて、効率の良い、他に負けない事業展開をしていき、これからも当協議会を通じて、計画的・安定的な未利用材等の集荷体制を確立していきたい。今後とも一層のご支

第七回岐阜木質バイオマス協議会の様子

援を賜りたい。」との挨拶がありました。

協議会事務局からは、稼働後一年間の木質バイオマス発電事業の状況と燃料調達の状況について報告がありました。木質バイオマスの発電状況については、「当初計画より未利用材の使用率が少なかったことにより、売り上げが落ち込んだ実績となっているがPPS（特定規模電気事業者）の関係もありトータルでは、収支が合っている。灰処理費については当初計画八三〇トン／年（一、六〇〇万円）であったが、実績では五、二〇〇トン／年（八、〇〇〇万円程度）となっている。平成二十八年度の発電計画については、三百三十日／年を計画している。」との報告を受けました。

また、燃料調達の状況については、「当初計画一〇万トン／年で、実績が九万トン／年の集荷量であり、ほぼ計画どおり納入できた。未利用材についても関係機関のご努力により六月以降、五〇キロワット程度の集荷率となってきた。現在、四、〇〇〇トンの在庫を持ちながら稼働している状況である。一日の原料使用量も二三〇トン～二五〇トン程度／年（昨年は三〇〇トン程度／年）と昨年と比べて雪も少なく含水率が低いため、使用量に差が出ている。」という報告がありました。

その後、㈱岐阜バイオマスパワーのボイラーを納入した㈱タクマより、「全国の発電状況」について、バイオマス燃料チップ製造機の販売等を手がける緑産㈱より、「全国の燃料調達状況」について報告を受け協議会は終了しました。岐阜県瑞穂市で始まった木質バイオマス発電事業も稼働後一年が経過し、大きなトラブルも無く動いています。

国有林に対しても安定的に森林資源を供給していくことが今後も期待されています。

シリーズ「森林官からの便り」

〔木曽署南木曽支署　阿寺森林事務所〕

森林官　谷脇　雅博

阿寺森林事務所は、長野県の南西部に位置する木曽郡大桑村に所在し、阿寺国有林及び天王洞国有林、約五、四〇〇ヘクタールを管轄しています。

管内の林分構成は、木曽五木を主体とした天然林が約三三キロヘクタール、ヒノキを主体とする人工林が六七キロヘクタールとなっており、人工林の多くは、明治時代に植林された一〇〇年生以上になる高齢級ヒノキ林です。

人工林ヒノキ優良林分展示林（阿寺国有林）

阿寺国有林には、阿寺渓谷と言われる急峻かつ風光明媚な渓谷があり、この一帯をレクリエーションの森（阿寺風致探勝林）に指定しています。

阿寺渓谷には、夏でも水温が低くエメラルドグリーンの美しい清流、別名「阿寺ブルー」と称される阿寺川が流れています。

エメラルドグリーンの阿寺川（狸ヶ淵）

また、阿寺川に沿って、阿寺渓谷キャンプ場まで併用林道が約六キロ整備されており、信州の名水・秘水にも認定された「美顔水」や平成二十五年度に林業遺産に認定された「第一阿寺川橋梁」、希少野生動植物のハナノキの大樹などの景勝地や野生動植物を見ることができ、四季を通じて、自然散策等を楽しみに多くの観光客が訪れています。

平成二十四年度には、阿寺渓谷の美しさを後世に引き継ごうと、地元自治体等（大桑村、大桑村議会、地元の関係団体）で構成される阿寺渓谷運営協議会が設立され、南木曽支署との間で協定が結ばれ、阿寺渓谷の整備、管理及び利用の活動が続けられています。今年度も、景

観整備作業が行われ支署職員も参加しました。

阿寺森林事務所では、森林教室、境界巡検、請負事業の監督、予備編成に関する業務のほか、平成二十五年度にコンテナ苗の普及・造林作業の省力化を目的に試験地を設定しており、植栽したコンテナ苗の生長調査等の調査も行っています。

また、生産請負事業者が、先進的架線作業システムとして、従来の架線より少人数で集材作業が可能で、架設・撤去の効率化が期待される「ウッドライナー」による集材を行うなど、生産性の向上及び低コスト化の実現に向けた取り組みも行っています。

さらに、南木曽支署管内で唯一「木曽悠久の森」の指定を受けていますし、木曽谷流域森林整備推進協定に基づき、大桑村の森林共同施行団地実施計画が策定されたところでもあります。

業務が多岐に亘り、大変な事もありますが、森林技術員と行政専門員、近隣の森林官、支署の皆さんのご指導ご協力を得て、いろいろな経験・体験ができ充実した日々を過しています。

今年度もあと一ヶ月となりました。無事故・無災害で業務を進めていきたいと考えています。

開花したハナノキの大樹

林業遺産の森林鉄道鉄橋跡

阿寺渓谷運営協議会による景観整備

間伐作業地の「ウッドライナー」による集材

地元小中学校教職員の森林教室

人のうごき

中部森林管理局人事　**十二月二十六日付**

▽育児休業（北信森林管理署森林官（木島平担当区））　百瀬　結（平成三十年三月三十一日まで）

十二月二十八日付

▽休職期間更新（総務企画部総務課共済組合係（休職））　吉原多恵子（平成二十八年三月三十一日まで）

二月九日付

▽職務復帰（伊那谷総合治山事業所一般職員（育児休業））　江崎陽介

行事・会議等の予定

◎治山・林道コンクール表彰式
3月4日　中部局

◎生産性向上実現プログラム取組結果発表会
3月8日　中部局

◎森林・林業社会貢献活動感謝状贈呈式
3月15日　中部局

ご当地自慢

「木曽川源流の里」木祖村

34

木曽森林管理署

木曽川源流の里である木祖村は、長野県の西部、木曽川の最上流に位置する村で、村の東側にある鳥居峠は旧中山道の難所と言われ、太平洋に注ぐ木曽川と日本海に注ぐ信濃川との分水嶺になっています。木祖村は戦国時代には武田氏と木曽氏の領地争いが続き戦乱に巻き込まれた地でありましたが、関ヶ原の合戦後の江戸時代には京都と江戸を結ぶ中山道六十九宿のひとつ「薮原宿」として栄えました。

今回のご当地自慢は、緑と水に恵まれた自然豊かな木祖村の見所をいくつかご紹介します。

◇鳥居峠

木曽街道薮原宿と奈良井宿の間に位置する鳥居峠（標高一、一九七メートル）は、江戸時代の旅人にとって、わらじ履きの足を泣かせる中山道屈指の難所でした。現在は石畳の道も復元され、昔ながらの中山道を堪能することができます。

近年の自然回帰や健康志向で脚光を浴び、散策に訪れる人たちで賑わっています。

鳥居峠の石畳

◆水木沢天然林

木曽川の源流部に位置する「水木沢天然林」は、木曽ヒノキやサワラなどの針葉樹とブナ、トチノキ、ミズナラなどの広葉樹が混交し生育している貴重な森林で、林内には「太古の森」、「原始の森」とふたつの散策コースがあり、いずれも一時間程度で一巡できます。

水木沢天然林の案内看板

多様な樹種が生育する天然林

◆味噌川ダム

木曽川上流の味噌川に造られた高さ一四〇メートルのロックフィルダムで、河川の水量調節や、下流域の生活用水と愛知県の工業用水、発電等々の機能を持っています。ダム建設によって生まれた「奥木曽湖」は、ダム湖一〇〇選に選ばれ、遊歩道や展望台などがあり、春には新緑を、秋には紅葉と四季折々の風景を楽しむことができます。

味噌川ダム（春）

◆縁結神社

木祖村と松本市を結ぶ県道二十六号線沿いの別荘地内にあり、日本で唯一「縁結」の名を持つ神社です。出雲大社の分社で、お参りして願をかけると想う人と縁結びが叶うと言われています。恋愛だけでなく人と人との繋がりにもご利益があるそうです。

縁結神社境内

◆アクセス

鳥居峠（歩行開始地点の薮原駅まで）は、中央道中津川ＩＣから車で約九〇分、長野道塩尻ＩＣから約四〇分、水木沢天然林は、中央道中津川ＩＣから車で約一一〇分、長野道塩尻ＩＣから約六〇分、味噌川ダムは、中央道中津川ＩＣから車で約一〇〇分、長野道塩尻ＩＣから約五〇分、縁結神社は、中央道中津川ＩＣから車で約一二〇分、長野道塩尻ＩＣから約七〇分です。

木祖村には他にもたくさんの見所がありますので、またの機会に紹介させていただきます。